

「月刊！スポ協ナビ」令和7年2月27日（木）

～豊橋スケート協会の方に「スケート」の魅力について伺いました～

出演者 豊橋スケート協会 副会長 杉浦

種田

豊橋市スポーツ協会 金田英樹

FMとよはし いいだまき



（いいだ）

は～い。月刊！スポ協ナビ、今月も始まりました。毎月第4週目のこの時間にお届けしております。10月10日の体育の日だった時代を経て、毎年10月の第二月曜日に変わり、そして名前も体育の日からスポーツの日に、それに伴って、2020年、豊橋市体育協会も豊橋市スポーツ協会となりました。今

豊橋市でどんなスポーツの大会が開催されているのか、どんなスポーツが熱いのかそんな話題を通して、スポーツの魅力をお伝えしていくコーナーです。さあ、豊橋市スポーツ協会から今日も金田さんにお越しいただいております。よろしくお願いします。

(金田)

よろしくお願いします。寒いですね。この2月大変でしたね。雪がちらつとね。ほとんど降ることも積もることもないんですけども。久しぶりですね、雪が舞ったのは。

(いいだ)

どうですかテニスコートを利用されるお客様は？

(金田)

いや、それがですね。全然寒さにめげずにいつもどおりすごいですよ。みなさん頑張ってますね。冬真っ盛かりの中で、やっぱり豊橋にはアクアリーナが豊橋があってですね。アイススケート、そう、冬のスケートを皆さん市民の方も楽しんでいると思いますけれども、今日はスケート協会の方にお越しいただいて、スケートの魅力をしっかり喋っていただこうかなと期待しております。

(いいだ)

はい、ありがとうございます。今回も加盟団体の方にお越しいただいてますが、まさにシーズン真最中の競技ですが、豊橋スケート協会からお二人にお越しいただいております。ご紹介いたしましょう。まず、豊橋スケート協会で副会長をされております杉浦さん。そしてスポーツ教室などで生徒さんたちを指導されている種田さんのお二人です。よろしくお願ひいたします。

(杉浦、種田)

よろしくお願ひします。

(いいだ)

お二人どれぐらいになります？

(杉浦)

2人で来るのは。2年ぶりですか。

(いいだ)

いや、本当ですか？杉浦さんは昨年もお絵かきの関係で来ていただいているのかな。

(杉浦)

そうですね。昨年は私と種田で来て、今年は協会メンバーの女性と3人で。

(いいだ)

いつもありがとうございます。お二人をお招きして今日は豊橋スケート協会のお話を聞いていこうと思うんですけども。まずは豊橋スケート協会の活動状況についてご紹介いただいてもいいですか？

(杉浦)

本協会は創立から50年経ってます。ちょうど私と同じ年なんんですけど、途中スケートシーンが豊橋からなくなってしまって、昔、藤沢のあたりに民間のスケート場があったんですが、閉鎖されてから10数年、スケート場がない状態で来たんですけども、金田さんから紹介ありましたアクアリーナという施設ができて、冬の間はスケートリンクということで、また活動を再開して10年経ちます。

(いいだ)

そうなんですね。今協会のメンバーさんっていうんですか、どんな感じなんですか？

(杉浦)

そうですね。我々スケート協会というのが、1つの競技団体というよりも、スケートという大きな括りにして、各競技団体が集ってスケートシーンを広めていきたいなという活動をしているので、アイスホッケーという競技、フィギュアスケートという競技、フィギュアの中でも、シンクロナイドフィギュアスケートという競技、スピードスケートという競技が集まって普及活動をしていくという団体となっています。各競技団体合わせて7クラブ 140名で、男性が76名、女性が64名の構成で活動しています。

(いいだ)

そうなんですね。いろんな競技があるっていう中で、それぞれフィギュア、あとはアイスホッケー、スピードスケート、それぞれどんな内訳になるんですか？

(杉浦)

そうですね、フィギュアが3クラブで61名で、アイスホッケーで登録しているクラブさんが4クラブ 79名で、あと普及に関わる基本的なスケートの指導のため、指導部として38名の指導員が登録しています。

(いいだ)

そうなんですね。ありがとうございます。やっぱりメインはフィギュアそしてアイスホッケー、そんな感じになってくるってことですね。

(杉浦)

そうですね。人数的にはそうなんですけどもその登録している会でも、カジュアルなホッケーやりたいとか一般的にスケート行きたいみたいな活動されてる人たちもいるので、そういう方たちにも、応援したいみたいな感じですね。

(いいだ)

そういう意味で、スケートリンクにお絵描きをする、お絵かきイベントっていうのもいろいろと皆さんのお楽しい時間になっているのかなと思うんですけれども。だいぶ好評みたいですね。

(杉浦)

そうですね。昨年の年末に第3回目を迎えることができて、事故もなく終わることができたんですけど、毎回いっぱい参加いただいて嬉しい限りです。

(いいだ)

聞くところによると、全国に広がり始めてるってそうなんですね。

(杉浦)

スケートはどうしてもマイナーな競技というか、スケート場自体がある市町も少ないんですね。どの競技団体も見に来てくれるかっていうか、同じ悩みを抱えていて、まず、スケート場に来てもらうということが、一番ですね。競技を見てもらうというのもそうなんですけど、スケート場面白いねみたいなイメージを持ってもらいたくて、まずお子さんたちが来てもらって、自由に絵を書いてもらって、スケート場あるよみたいな広報として活動するのも、実際に来てもらうと僕らもやってて楽しいので。できる体験ではないのでね、やっぱりお子さんたちが一番楽しいのかなとは思うんですけど。

(いいだ)

なかなかできる体験ではないので、なんていうのかな、子どもの頃の体験がいつまでもいい思い出になって、それがスケートに対するいい思い出になってっていうのって、すごい大切なかなって思うんですよね。

(杉浦)

そうですね。スケート場に来てもらって、まず、スケート場が豊橋市にあるよということを知ってもらうのが一番なんんですけども。とは言えそれから競技に繋がっていくっていうのを、我々としてはサポートできるか、どういう風に広報できるかみたいなのは、今後も続けて考えていきたいなと思います。

(いいだ)

はい。皆さん色んな大会に参加されてるというのもあると思うんですけども、豊橋シンクロナイズドスケーティングクラブ、これ2024年ジャパンシンクロナイズドスケーティングオープンで見事1位を取られたということで、かなり高成績なクラブなんですね。

(杉浦)

そうですね。シンクロナイトスケーティングっていう活動されている団体が全国にもなかなかなくてですね。それを豊橋でクラブチームとして活動しているのが、珍しいんですけども。参加人数もマイナー競技なんですけども、それでも出身のチームが、規模はちっちゃくても大会で優勝してきてくれるというのはすごい嬉しいですね。

(いいだ)

そのメンバーの内訳っていうのは、男女の比率っていうのはどんな感じになっ

てるんですか？

(杉浦)

はい、ほぼ女性なんですけども。ただ、競技のレギュレーション的に 16 名 1 団体という競技レギュレーションがあるので、まず 16 人きっちり揃えるっていうところから、多分苦労されてるとは思うんですけど。

(いいだ)

なるほど。やっぱりマイナーっていうのもあって。なかなか知名度がたぶんまだまだっていうのが大きいのかなと思いますけど。

(杉浦)

そうなんです。なので、アイスケートシーンもそうですし、フィギュアスケートもそうなんですけど、フィギュアスケートは個が参加できる大会がたくさんあるのでいいんですけど、例えばホッケーで言うとローカルルールだと最低 7 人いれば、大会には参加できますよっていうのがあるんですけど。16 人スケートで、なおかつフィギュアスケートができる選手を募るっていうのもなかなか活動的に大変だと思うんだけど、そんな中続けて大会参加してもらって、好成績も残していくというのは素晴らしいなあと思ってます。

(いいだ)

それこそ豊橋にはシンクルナイススケーティングがあるっていうことで、どんどんどんどん知名度を上げていって。

(金田)

今シーズンも参加して優勝しましたからすごいですね。通算 9 度目ですかね。記録を塗り替えたんですよね。どうなるのかと思って、ちょっと僕も注目して

みてたんですけど、昨年に続いて見事 1 位を取ったっていうことで、素晴らしいですね。

(いいだ)

続けていただきたいなあと思います。

(杉浦)

そうなんです。豊橋で活動されてた選手がシンクロナイズスケーティングの世界選手権に参加して、今豊橋に戻ってきてくれて、我々の普及活動に協力してくれてるので、そういう経験を持っている指導員がいるっていうのもなかなか誇らしいですね。

(いいだ)

そうですね。本当に心強いし豊橋のすごい力になりますよね。いやー、ちょっとここからどんどん強くなって、もっと普及してもらえると嬉しいですね。アイスホッケーの方も種田さんも指導されて頑張ってますが、いかがですか？

(杉浦)

そうですね。今加盟団体の中で、社会人のチームが 1 チーム、ジュニアチーム、中学生までが 2 チーム登録してもらって活動しています。今までですね。豊橋で全国規模の豊橋カップというのを開催してきたんですけども、残念ながら、ここ数年単独のチームで参加することができなくて、まあ、人数不足っていうことなんんですけども。せっかく豊橋ができる大会なので、豊橋のチームで参加したいなみたいなのをもう一回こう普及して、参加人数というか、プレイヤーの人数を増やして行きたいなみたいな感じです。とはいえる豊橋でアイスホッケーやってきた選手たちが例えばアイスホッケーの大学のリーグだと関

東の 1 部リーグというところが一番レベルが高いんですけども、我々出身の選手が各地域リーグでも普通に活躍してますので、その後も期待してますし我々も諦めずにプレイヤーの人口を増やしたいなと思っています。

(いいだ)

なるほどね。ほんとに増えていくといいですね。どうですか、種田さん的にそのアイスホッケーの人口を増やす機会とかっていうのってどういうところにあると思います？

(種田)

やっぱり一番わかりやすいのは、日本人選手が大谷翔平選手のように活躍するっていうのがあるとは思います。ただ、スポーツとしてみても、あれだけ、激しいボディーコンタクトが許されて、やっぱりそういったダイナミックさとか、爽快さを出来るだけ、いろんな人に感じてもらいたいなというがあります。

(いいだ)

実際、危なくないんですか？

(種田)

僕は 1 回も骨折もした事ないです。全身プロテクターがあって、一応コンタクトもそれがあるからこそ許されてるんですけど。今は技術もすごくて軽くて丈夫にできているので、子どもがバーってぶつかっても、結構安心して見てられるのもあります。

(いいだ)

種田さんってアイスホッケー歴何年になるんですか。

(種田)

5歳からやってるので、27とか28年やっています。

(いいだ)

種田さん5歳からやっていて、そういう子もいるわけですよね。どんどんそういう子が増えていけばいいなと思うんだけど。やっぱり地域性もあるのかなあ。

(種田)

やっぱりアクセスがすごい重要なので、海外みたいにショッピングモールにリンクがついてますよとかって感じじゃないので、その市町にスケートリンクというのが、しっかりあるよっていうのは、すごくいいと思いますね。

(いいだ)

そういう意味で本当にアクアリーナって、いろんな可能性を秘めてると思うんですけども、どうですか杉浦さん今後スケート協会さんとして力を入れていきたいところっていうのは？

(杉浦)

そうですね。先ほど話題に出していただいたお絵かきイベントみたいなものもそうなんんですけど、意外と肌感で申し訳ないですけども、お話してて、豊橋にスケートリンクあったっけみたいな。

(いいだ)

やっぱり、まだまだそういう感じで、・・・好きでっていうのによくアクアリーナの方に足を運ぶっていう話を聞いてたんですけど。やっぱ、そういう方もいれば、やっぱスケートにまだ興味がないと、あったんだねみたいな感じになるんですかね。

(杉浦)

そうなんです。そこがやっぱり問題というか、一番のアクセスできるところだなと思って、競技には関係ないけれども、キャンパスに使って追いかけする。一回スケート場に遊びに来てよっていうところみたいな、スケート場があるよっていうのをそういうイベントを通して、広報して、なるべく 1 人でもスケート場があることを知らうことからなんかなと思ってます。

(金田)

あることは知ってるかなと思うんですけど、ただスケート場まで入るっていうところがね。スケート靴を履いてっていうのも、敷居が高いのかなっていうことで、その一歩が進むと楽しさを体感できるんじゃないかなとは思いますね。

(いいだ)

本当にその 1 歩がお絵描きイベントって大いにあると思いますし、もっとここから広がっていくといいなってね。

(杉浦)

それはイベントとしてのタッチなんんですけど、協会としては、普及っていうものにタッチしてもらいたい。そことかはスポーツ協会さんに主催していただいている教室が毎月開催されているので、シーズン中はですね。そこに来ていただければ、よっぽどじゃない限り、1 日 2 日で立って滑れるようなるので、そこに来てもらって、安全に滑れるよみたいな体験をしてくれるところまでが、まずファーストかなみたいな感じですね。

(いいだ)

なるほどね。1 回とにかくね、スケートリンクに足を踏み入れていただいて、氷の上の感覚っていうのを体験してほしいですね。ありがとうございます。さ

あ、指導部の話も聞いていきたいんですけども、指導部には、38人の先生というか、コーチがいらっしゃるっていうことですけれども、種田さんもそのお一人ということですね。どんな感じの指導を皆さん行っていらっしゃるですか。みんながホッケーの先生っていうわけではないですね。

(種田)

そうですね。スケート協会自体がちょっと特殊で、その中にはフィギアやホッケー、スピードスケートの競技を経験されてる方とか集まってきたので、特殊なんんですけど、一応スケート協会として毎週日曜日の朝にスケート教室というのを開催してまして、その全ての競技に通じる基本的なスケーティングっていうところを教えています。どういう風に教えるかみたいな指導講習みたいなのとかされてて、いろんな競技の色があるけども、共通してのスケーティングとして、教えていきますよっていう先生をレクチャしているのを協会の方で行っています。

(いいだ)

確かにアイスホッケーやるのにも、スケートを普通に滑れないとダメっていうまずはね。

(種田)

理想形としてはそれから競技に興味を持っていただく。その先はスケート靴一つとっても、ホッケー、フィギアとは全然違うんで、その先は専門性を持ったことを教えていく。

(いいだ)

やっぱ滑り方ものアイスホッケーでは、決してターンなんかはしないと思うん

だけど。あのやっぱり違ってくるっていうか。

(種田)

全然違いますね。まっすぐ走らせて、どこの競技出身だなってすぐわかります。

(いいだ)

あー、そうなんだ。そこからは、本当に専門的な感じになってくると思うんですけど。でも、まずは基本的に滑れるようにするっていうのは第一歩ということですからね。なんで、そこにいろんな方が来てくれて、もっともっと楽しめるかなと。

(いいだ)

種田さん、最初からすいすい滑れたんですか？

(種田)

いや、全然全然ですよ。僕の時なんて 2 年間スケートだけでした。ホッケーなんんですけど、防具を着せてもらえず、スケーティング 2 年間ずっとやり続けてました。スキーウェアみたいなものを着て。

(いいだ)

リンクのうえコロコロ転がりながらみたいな感じだったりするんですか？

(種田)

そうですね。まあ、とにかく量みたいな形だったので、やっぱりバスケ、サッカーとかで考えるとまず最初うまく走れない、立ち上がれないとスケートって始まっちゃうので、そこでやっぱり子ども達が飽きないように、ちょっと面白い要素とかも入れながら、気づいたらうまくなっていたというような。

(いいだ)

そこに先生の腕の見せ所があるっていうことですね。種田コーチの教室で楽しくで滑れるようになって、上手に続けてホッケーに進んでいく子がいっぱい増えるといいですね。

(種田)

そうですね。そんなところから競技性をもっと強めていきたいという子が出てきたら、まあ人口的な問題もある程度が何とかなるのかなと。

(いいだ)

本当にまずは、スケート人口増やすっていう第一の優先事項があってね。種田さんこれから指導者として、こういう感じでやっていきたいという夢があるんですか？

(種田)

そうですね。アイスホッケーとか、スケートっていうのは、たまたま自分がやってたからっていうだけなんですけど。やっぱり、そのスポーツを通じて困難に立ち向かったりとか、挫折したりとか、そういうところを経験して欲しいなって思ってます。でも、やっぱり高いレベルでぶつかるにはその競技性も必要なので、自分が教えられるのはアイスホッケーなので、経験も大事にしながらやっていきたいですね。

(いいだ)

今ね、こうやって放送聞いているお父さん、お母さんも多いと思うんですけど、ちょっとうちの子に、スケートやらせたいわみたいなそんな方のために体験みたいなのっていうのはあるんですか。

(杉浦)

はい、どの競技団体さんクラブチームも体験は大歓迎で、子どもたちのホッケーチームでは常に募集しているので、来てもらえば一通りのレンタル用の防具をつけて体験できるので、特に危ないとかもないですし、今我々 2 人で話したような雰囲気、楽しいよねという雰囲気で、参加していただけるので、各チーム、それぞれ体験募集に応募すれば、入れてくれるので、是非声をかけていただきたいなと思います。

(いいだ)

ぜひ体験だけでも、どこに本当に才能が転がってるかもわからないし、どこに面白さを子ども達がみんな感じるかっていうのも、お父さんお母さんにもわからないところがあると思うんで、1 回ちょっと行ってみるっていいですね。皆さんぜひ、その問い合わせに関しては、スポーツ協会のホームページからっていうのでも大丈夫なんですか？

(金田)

スケート教室ですね。それは、スポーツ協会の方から申し込みをしていってもらうようになるもんですから、ホームページを見てもらって、そこから申し込みしていただければ大丈夫です。3 月にスケート教室ありますので、毎週日曜日、是非 来ていただけするとありがたいなと思います。ちゃんと年代別に分かれてやってますんで、心配することなく。優しく教えていただけると思います。

(いいだ)

はい。色々と楽しくスケートを滑れるようになれるかな気がするので、まずは体験で足を運んでいただけたらと思います。最後になりましたけれども、この

放送を聞いてる皆さんに、お二人から一言ずつメッセージお願ひしてもいいですか。

(杉浦)

豊橋には全国的にもそう多くないスケート場がある珍しい市町ですので、ぜひ一度 スケート場に、どんなイベントでもタッチしてもらって、スケート場に足を運んでもらうと各競技団体が滑ってたりとか、見かけることが多いので。一度 ゼひスケート場に足を運んでいただきたいです。

(いいだ)

はい、ありがとうございます。種田さんお願いします。

(種田)

全国のリンクもかなり回りましたけど、アクアリーナは競技もしやすいですし、席も多いですし、すごくいいスケート場だと思います。あとはスケートでしか感じられない、滑る気持ちよさとか、爽快感とかっていうのもあると思うので、是非そういうところを体験しに来ていただきたいなという風に思います。

(いいだ)

金田さん、そうしてみると豊橋はかなり恵まれてますね。

(金田)

本当にそう思いますね。なかなかスケート場が身近にあるっていう都市はあまり多くないですから、本当いいまちだと私は思いますけどね。

(いいだ)

そして金田さん。スポーツ協会としてもこれからスポーツイベント盛りだくさんですね。メインはマラソンですか？

(金田)

はい、3月23日、あと1ヶ月後に迫ってきました。鈴木亜由子穂の国豊橋ハーフマラソン 2025が開催されますので、ぜひ楽しみにしていただけたらと思います。5000人を超えるランナーの方が豊橋に来ていただきますし、前日には小学生の800メートル競争というのを今年初めてやりますので、ぜひそちらの方も、今はあの定員いっぱいで申し込みが来てますので楽しみにしております。そして続いてよろしいですか？6回目になるんですけれども、東三河ジュニアスポーツ勉強会が3月22日に開催されます。主催は東三河ジュニアスポーツ勉強会実行委員会それからTTランナーズの主催です。それからスポーツ協会、豊橋、その他東三河の教育委員会が後援しています。場所はホテルアークリッシュで時間は1時半から4時まで。内容は健康にスポーツをするために何が必要かということで、専門家の方々からのスピーチ、アスリートもお見えになるんですが、今日のスケートも関係してますが、スピードスケートの小平奈緒さんが来ていただいてお話ををしていただけるようです。2部はパネルディスカッションで、いろんな話題について、意見交換がされるという風に聞いています。小学生から中高校生、スポーツをやっている子たち、それから保護者指導者の方々幅広くと聞いていただける内容になってるかと思いますので、申し込みしていただいて、参加していただきたいというふうに思います。

(いいだ)

はいありがとうございます。ジュニアスポーツ勉強会毎年すごいアスリートの方最新の指導技術の事も、色々教えてくれるって聞きますけど。

(金田)

そうですね。スポーツをして健康を崩すというのは、良くないということで当然のことだと思うんですけど、そういうことに対してのいろんな知見というか考えを勉強していただけるようなそんな場所かなというふうに思います。普段聞くことが出来ない話を聞けると思いますので、ぜひご参加いただけたらと言うふうに思います。

(いいだ)

はい、指導者の方、今現役で頑張っているアスリートの皆さん、部活っていうか運動クラブに所属してるっていう子ども達、皆さん聞いていただいて、ためになるお話になっていると思いますので、東三河ジュニアスポーツ勉強会で検索していただいて、ぜひ申し込みをしていただきたいと思います。その他色々とスポーツのイベントたくさんあるかと思いますけれども、こちらは、スポーツ協会のホームページの方でチェックしていただいて。

(金田)

そうですね。4月からまたスポーツ教室が色んな種目で始まります。3月5日から既に申し込みが開始されてますので、参加したいと思われている方はスポーツ協会の方を見ていただき、種目を選んで参加してもらえるといいと思います。スケートも入ってあります。

(いいだ)

さあ、金田さん。最後に締めでもらえますか。

(金田)

先月の23日なんですが、こども未来館で恒例のここにこ場所、ここにこ相撲

大会がありまして、私も見に行ってきました。大変人気のある大会で盛り上がるんですけど、今年も楽しかったです。やるのは年長の子から小学校3年生までの子たちなんですが、男の子だけじゃなくて、女の子も出てるんですね。一緒に相撲をとて、保護者の皆さん、勝敗に一喜一憂して、すごい声援が飛んだりとか本当に楽しかったですね。それでやっぱりいいなと思ったのは、ふるさと大使の山分親方が来ていただいてるんですね。そして豊橋出身力士の金沢くん、今は玉欧山っていう四股名が付いてますが、来てくれて、子ども達がサインもらいに行ったりとかね。本当に楽しい時間を過ごせたのではと思っています。こういった催しですね、子どもたちを入れて、保護者さんも含めていろんな大会の中で、元気をもらえるっていうかそんな時間でした。スポーツの力って大きいなって、改めて思いました。スポーツ協会もこれからスポーツの魅力をどんどん発信して、豊橋のまちが元気になるように、これからも頑張っていきたいと改めて思った次第でございます。

(いいだ)

はい。スケートも、相撲もいろんな行事で子どもたちから大人の方まで楽しんで健康になるといいですね。さあ、今日も月刊！スポ協ナビ、豊橋スポーツ協会からは金田さん、豊橋スケート協会からは杉浦さんと種田さんにお越しいただきお話を伺いました。皆さんありがとうございました。

(杉浦、種田、金田)

ありがとうございました。